

目次

CONTENTS

理事長挨拶	2
-------	---

■ 奨学事業

3

渥美奨学金の概要	4
蓼科旅行	5
講演茶話会「放射能：人体に与える影響について」	6
現場見学会（鹿島建設技術研究所訪問）	6
2012 新年会	7
2011 年度渥美奨学生（17 期生）研究報告会	8
ラクーン会	10

■ 国際交流事業

11

SGRA の概要	12
----------	----

[海外研究交流活動] 編

第 1 回 日台アジア未来フォーラム	13
第 4 回 ウランバートル日モ国際シンポジウム	14
第 6 回 チャイナ・フォーラム	15
第 11 回 日韓アジア未来フォーラム	16
第 1 回 アジア未来会議	17

[国内研究交流活動] 編

第 41 回 SGRA フォーラム in 蓼科	18
第 42 回 SGRA フォーラム in 早稲田	19
第 43 回 SGRA フォーラム in 国際文化会館	20

■ 財団運営

業務日誌	21
財務諸表	22
財団人名簿	23
2011年度の活動にご協力いただいた方々	24

ご挨拶

理事長 渥美伊都子

財 団法人渥美国際交流奨学財団が1994年4月に設立されてから今年で19年目を迎えます。毎年約12名の奨学生の支援を続け、現在の18期生までで総数217名となりました。1年間の支援を終えた奨学生たちは世界各地に散らばってそれぞれ活躍していますが、今でも殆どの方と連絡を取り合っており、奨学支援期間が終了した後もグローバルなネットワークが着実に成長しております。



公益法人改革に伴い、2011年4月に公益財団法人渥美国際交流財団として認可されました。従来の奨学事業の他に国際交流事業として関口グローバル研究会（SGRA）を組込み、2本柱の公益目的事業を実施する財団として再出発いたしました。元奨学生たちが核となって国際的かつ学際的な研究チームを編成してグローバル化に関する諸問題に取り組み、その研究成果をフォーラムやシンポジウム、レポート、メールマガジン等の方法で広く社会に発信しております。毎年、国内ではフォーラムを3回開催し、海外では韓国、中国、モンゴル、フィリピン、台湾の5つの拠点で活動しています。

また、2013年3月に上海で開催する新事業「アジア未来会議」の準備を着々と進めております。

みなさまからは、これ等の事業に対して多額のご寄附をいただき心より感謝申しあげ、有効に使わせていただきたいと思います。

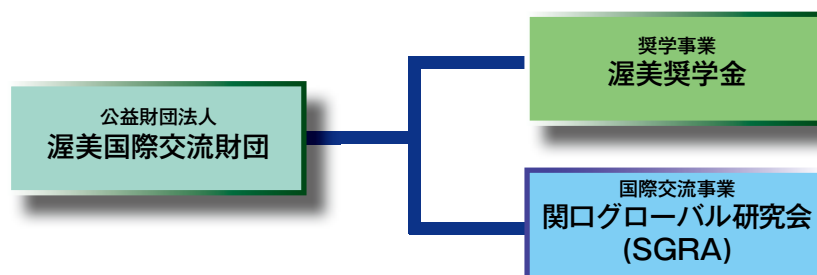
グローバル化、情報化の時代、世界全体に変革の嵐が渦巻いている中、この若い研究者たちの活動が意義あるものとして少しでも社会にお役に立てばと願っております。私は毎年新しく出会う12名の奨学生たちによって新しい世界を知り、多分野の研究発表によって急速に移り変わる社会に気付き、とても追い付きませんが、大きな変化を感じる日々を過しております。

このように事業が順調に進展いたしますのも日頃ご支援・ご協力くださいます多くの方々のおかげと有難く心より御礼申しあげます。

どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

渥美財団のふたつの公益事業

渥美財団の事業は大きくふたつに分かれます。奨学事業と国際交流事業（SGRA）です。



奨学事業

生活支援と同窓会（ラクーン会）活動

渥 美財団は、奨学生の皆さんが自分とは異なることをしている人と会い、自分の専門以外のことを話し合う場を提供したいと考え、さまざまな交流の機会を提供しています。奨学金の支給に際しても、銀行振り込みではなく、必ずお目にかかってお渡しし、緊密なコミュニケーションをとりながら奨学支援を行います。奨学期間終了後も緊密に連絡を取り合い、ゆくゆくは世界的なネットワークを築けたら素晴らしいと思っています。

渥美奨学生の同窓会は、渥美健夫氏が描いていた狸にちなんでラクーン会と呼ばれています。ラクーン会は世界各地で開催されています。

2011年度の 主な活動

- 蓼科旅行 p 5
- 講演茶話会 「放射能：人体に与える影響について」 p 6
- 現場見学会（鹿島建設技術研究所訪問） p 6
- 2012 新年会 p 7
- 2011 年度渥美奨学生（第 17 期生）研究報告会 p 8・9
- ラクーン会 p 10

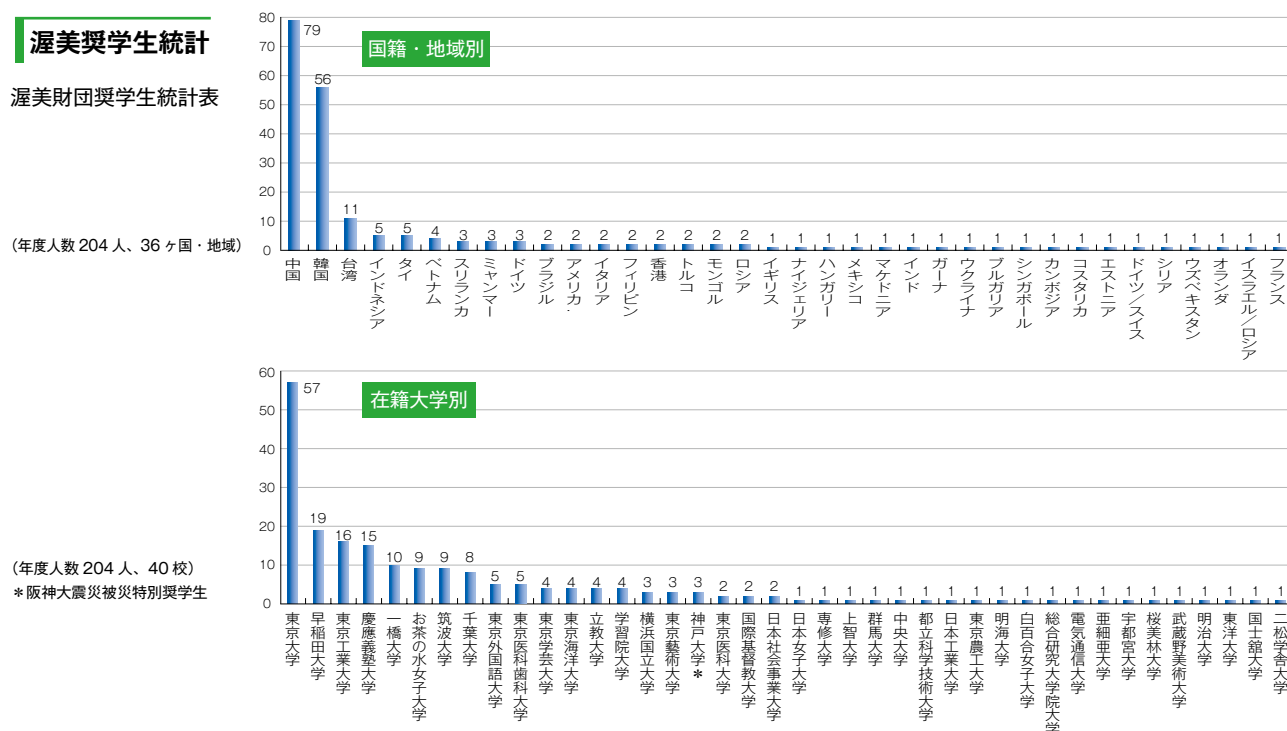
※毎月「月例会」を開催、奨学生の生活支援を行っています。

渥美奨学金の概要

渥 美国際交流財団は日本の大学院博士課程に在籍する留学生を対象に、毎年約 12 名の奨学生を募集・選考し、月額 20 万円の奨学金を支給しています。支給年限は一年で、継続はありません。また、奨学生の専攻分野と国籍に制限はありませんが、一分野・地域に偏らないように配慮しています。2011 年度(17 期生)までに、36 ケ国・地域、204 人を支援してきました(下図)。

渥美奨学生統計

渥美財団奨学生統計表



応募および選考

■ 応募資格 (下記の全てに該当すること)

1. 日本以外の国籍を有し、日本の大学院の博士(後期)課程に在籍し、奨学金支給終了時に博士号を取得する見込みのある方。正規在籍年限を超えたために、或いは、他国の大学院より博士号を取得するために、研究員等として日本の大学院に在籍する方も含みます。
2. 自分の所属する大学院研究科(研究室)と自分の居住地の両方が、関東地方(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県)にある方。
3. 日本語に堪能な方。(全ての応募書類と面接は日本語だけです。)
4. 国際理解と親善に関心を持ち、当財団の交流活動に積極的に参加する意志のある方。

※当財団の支給期間は1年間です。継続は認められませんので、奨学金支給期間に博士号を取得できる見込みのない方は適さないと考えます。博士号取得の見込みがない方は、次年度以後応募してください。

■ 応募方法

奨学金希望者は、7月1日以後、各大学院の留学生奨学金担当課または当財団事務局まで、応募要項と申込書をご請求下さい。同日以後、財団ウェブページからもダウンロードすることができます。応募申込は毎年9月に受け付けます。

■ 選考の方法

事務局における書類と面接による予備審査の後、選考委員による書類選考と面接試験により審査します。選考の結果は12月上旬までに通知します。

※奨学支援を機縁とした渥美財団のネットワークは、どんなにささやかではあっても世界の調和ある発展のために役立たせたいと考えております。そのため、博士論文の研究内容が人類や社会、あるいは自然との「調和ある発展」へ貢献する可能性が大きいと考えられるものを歓迎します。

蓼科旅行

7月1日（金）～3日（日）

於：蓼科高原チェルトの森ほか

毎年恒例の蓼科旅行を実施。7月2日（土）には第41回 SGRA フォーラム in 蓼科「東アジア共同体の現状と展望」が開催され、奨学生同士の交流を深めるまたとない機会となった。

第一日目／7月1日（金）

オリエンテーションで、互いに自己紹介をする奨学生たち。出身国も研究テーマもさまざまな仲間が集まって、笑いのかほれる和やかな時間となった。



第二日目／7月2日（土）

終日フォーラムに参加。終了後懇親会も行われ、講師の先生たち、OBOGの方々、2011年度奨学生という大人数の賑やかな会となった。



第三日目／7月3日（日）

バーベキューパーティを開催。日本のおでん、韓国チームのチャブチェとチヂミ、中国チームの水餃子、肉まん、モンゴル料理のラム串焼きが披露された。今年は好天に恵まれ、大いに盛り上がった。



講演茶話会

放射能：人体に与える影響について

7月23日（土）

於：鹿島新館・渥美財団ホール

福島第一原子力発電所の放射線漏れが、日本の国境を越えて世界の関心事となっている。当財団理事で元癌研究会癌化学療法センター主任研究員でいらした片岡達治さんをお迎えし、講演していただいた。



生活レベルから社会・経済・国際関係まで多方面にわたる影響をめぐって、本音トークの質疑応答が繰り広げられた。



後半には、日立製作所で長年原子力発電に携わってこられた田岸昭宣さん（左）を交えたディスカッションも行なわれた。

詳細は AISF ニュース <http://www.aisf.or.jp/jp/index.php> [2011] 07.23 渥美財団座談会
「放射能：人体に与える影響について」

現場見学会

（鹿島建設技術研究所訪問）

12月9日（金）

於：飛田給新研究棟・西調布実験場

2011年度の奨学生と財団関係者ら13人が、調布市飛田給にある鹿島建設の新しい研究棟を見学した。その後、西調布実験場へ移動し、「技術の鹿島」を支える最新技術を見てまわった。この研究所勤務の2001狸の全振煥先輩がいろいろ面倒を見てくださった。



概要の説明を受け、早速飛田給本館研究棟から見学開始。戸河里所長から、断熱性を高める緑の屋上について話を聞く参加者一同。



見学会後、参加者はタクシーで調布駅に移動し、見学内容を話題に忘年会を実施。楽しく、かつ充実した一日となった。

詳細は AISF ニュース <http://www.aisf.or.jp/jp/index.php> [2011] 12.09 鹿島技術研究所見学会

2012 新年会

1月14日（土）

於：鹿島新館・渥美財団ホール

渥美奨学生やラクーン会員等約 50 名が集い、新年を祝った。今年は特にたくさんの家族の皆さんにも参加していただき、いっそう賑やかな新年会となった。



11:00、心づくしの料理が用意され、新しい年に一同「乾杯！」



食卓には、半数以上の参加者が早めに集まって用意した、お国自慢料理が並ぶ。



今年の餅つきはミャンマーのイエ（2009 狸）兄弟が仲良く息を合わせて大活躍だった。（注：キネをつくのは内モンゴルのフスレさん（2003 狸）とインドネシアのミヤさん（2010 狸）のご主人）



つきたてのお餅は適度な大きさに丸められ、次々と参加者の胃の中へ納まっていった。



山と積まれた景品をかけて、渥美財団新年会の定番、ビンゴゲームとクイズで大盛り上がり。



2011 年度奨学生が朝早くから、素敵なおケーキや花束、そしてお祝いメッセージカードを用意。みんなで理事長の誕生日をお祝いした。

2011年度渥美奨学生（17期生） 研究報告会

3月3日（土）

於：鹿島新館・渥美財団ホール

ラクーン会会員 32 名、留学生教育学会、鹿島美術財団、辻アジア国際奨学財団などの来賓、財団の役員とスタッフを含め、約 50 名の方々が参加。2011 年度奨学生の発表に聞き入った。

緊張しながらも各自の博士論文となるこの一年間の研究と実践を報告する奨学生たち。一人ひとりの研究に対する熱意が伝わり、聴衆から大きな拍手が響く。



プレゼンテーション能力を高めてもらうため、発表は極力パワーポイントの使用を推奨。慣れると手離せなくなるほど、その効果は歴然。



発表後、「効果的なプレゼンテーションを行うために必要な“特徴”」をご自身の経験を交えてお話いただくなど、来賓の方々から心のこもったコメントをいただいた。



発表という大役を終え、ほっとした表情を浮かべる 2011 年度奨学生たち。1 年間の頑張り、お疲れさま！



報告会終了後、同ホールで親睦会を開催。フレッシュな 2012 年度奨学生も加わり、和やかな歓談のひとつときとなった。



大正時代から伝わる雛飾り。奨学生たちの門出を祝うかのように、春の気配を漂わせていた。

2011年度奨学生の発表テーマ一覧

日本の都市型駅における公共的内外連続空間に関する研究

Ho Van Ngoc

ホー ヴァンゴック (ベトナム)

所属：千葉大学大学院
専門分野：博士＜建築都市科学＞
現職：鹿島建設建築設計本部勤務



九世紀の来航新羅人と日本列島 鄭 淳一 ジョン・スンイル (韓国)

所属：早稲田大学大学院
専門分野：アジア地域文化学
現職：日韓文化交流基金招聘フェロー
(早稲田大学)



信牌システムの研究

彭 浩 ほう・こう (中国)

所属：東京大学大学院
専門分野：博士＜日本文化研究＞
現職：東京大学資料編纂所日本学術振興会外国人特別研究員



19世紀末における日朝相互認識 —来日朝鮮使節団の記録を中心に—

李 孝庭 イ・ヒョジョン (韓国)

所属：国際基督教大学比較文化研究科
専門分野：比較文化
現職：(在ソウル)



日本統治期台湾人による新感覚派の受容 —戦略としての横光利一の受容—

謝 恵貞 しゃ・けいてい (台湾)

所属：東京大学大学院
専門分野：アジア文化研究
現職：帝京科学大学非常勤講師



1930～40年代における モンゴル文教政策 —日本との関係を中心に—

Naheya 娜 荷芽
ナヒヤ (中国 内モンゴル)

所属：東京大学大学院
専門分野：地域文化研究
現職：武蔵大学、和光大学非常勤講師



ヴェルサイユ平和体制とサンフランシスコ 平和体制の比較史的研究 —日韓関係における主権、認識、制度を中心に—

金 崇培 キム・スンベ (韓国)

所属：延世大学 / 慶應義塾大学
専門分野：国際政治学
現職：(在ソウル)



1970年代以降日中関係における 経済界の立場と役割 —対外政策の国内基礎とその形成—

李 彦銘 リ・イェンミン (中国)

所属：慶應義塾大学法学研究科
専門分野：政治学
現職：フェリス学院大学非常勤講師



貿易不均衡の解消のための国際機関の利用 —GATT/WTOへの訴訟による 米国の保護主義の発生

朴 准儀 バク・ジュンイ (韓国)

所属：ボストン大学政治学科博士課程 / 東京大学社会科学研究所 / 財務省財務総合政策研究所
専門分野：国際政治経済
現職：北京大学研究員 (在北京)



世界都市東京のファンタスマゴリア —臨海部都心開発を中心に—

金 銀恵 キム・ウンヘ (韓国)

所属：韓国・ソウル大学 / 東京大学社会科学研究所
専門分野：都市社会学
現職：韓国放送通信大学非常勤講師
(在ソウル)



二本鎖アンチセンスオリゴヌクレオチド を用いた効率的な遺伝子抑制法に 関する研究

朴 文英 ぱく・ぶんえい (中国)

所属：東京医科歯科大学
専門分野：脳神経病態学
現職：東京医科歯科大学技術補助員



認知症ケア従事者の 自己能力評価ツール開発に関する研究

姜 文熙 カン・ムンヒ (韓国)

所属：日本社会事業大学大学院
専門分野：社会福祉学
現職：日本社会事業大学大学院在学



ラクーン会



毎年世界各地で開催されている渥美奨学生の同窓会、通称「ラクーン会」。2011 年度も国内、海外で 12 の会が開かれた（下記はそのうち 5 つ）。また、ラクーン会メンバーとともに、東日本大震災被災地へのボランティア活動も行なわれた。



2011 年 4 月 29 日 ミニラクーン会 in 島根
於：出雲大社、足立美術館ほか 2 泊 3 日の旅



2011 年 6 月 26 日 韓国ラクーン会 in ソウル
於：ロッテホテル 37 階の中華レストラン「桃林」



2011 年 9 月 22 日 ラクーン会 in 北京
於：北京大学近くのレストラン「普蘭徳」



2012 年 1 月 8 日 韓国ラクーン会 in ソウル
於：鍾路区光化門にある「モラッ (Bistro Seoul Morac)」



2012 年 2 月 11 日 ラクーン会 in 上海
於：上海财经大学豪生大酒店近くのレストラン「寧国府」

詳細は AISF ニュース <http://www.aisf.or.jp/jp/index.php>

- [2011] 04.29 ミニラクーン会 in 島根
- [2011] 06.26 韓国ラクーン会 in ソウル (2011 年夏)
- [2011] 09.22 ラクーン会 in 北京 2011
- [2012] 01.08 韓国ラクーン会 in ソウル (2012 年冬)
- [2012] 02.11 ラクーン会 in 上海 2012

ラクーン、石巻へ

2011 年 9 月 19 日、東日本大震災後約半年が過ぎたこの日、財団関係者が中心となって、被災地となった石巻の子どもたちのために“インターナショナル炊き出し”を実施。手作りのチヂミやチャブチェを美味しく食べてくれる子どもたちの姿に、一同、胸が熱くなる思いがした。

詳細は AISF ニュース <http://www.aisf.or.jp/jp/index.php>
[2011] 09.19 ラクーン、石巻へ



国際交流事業

世 界各国から渡日し、長い留学生生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化にたちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。この国際交流事業を実施する組織が「関口グローバル研究会」(SGRA・セグラ)です。

SGRA は、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行っています。

海外拠点における研究交流活動

現 在 5 つの海外拠点が継続的に活動中。2011 年度は 4 ヶ国でフォーラムやシンポジウムを開催しました。2013 年には 6 つめとなる「第一回アジア未来会議」を開催することが決まり、準備も着々と進んでいます。

- ① 日韓アジア未来フォーラム (start 2001 年)
第 11 回日韓アジア未来フォーラム開催 p 16
- ② 日比共有型成長セミナー (start 2004 年)
2011 年度は延期となり、2012 年 4 月開催予定
- ③ SGRA チャイナ・フォーラム (start 2006 年)
第 6 回チャイナ・フォーラム開催 p 15
- ④ ウランバートル日モ国際シンポジウム (start 2008 年)
第 4 回ウランバートル日モ国際シンポジウム開催 p 14
- ⑤ SGRA 台湾フォーラム (start 2011 年)
第 1 回日台アジア未来フォーラム開催 p 13
- ⑥ 第一回アジア未来会議 2013 年開催予定

国内における研究交流活動

現 在、7 つの研究チームが活動しています。2011 年度には 3 つの国内フォーラムを開催しました。

- ① グローバル化と地球市民
- ② 環境・エネルギー
第 42 回 SGRA フォーラム in 早稲田 開催 p 20
- ③ IT と教育
- ④ 東アジアの人材育成
- ⑤ 東アジアの安全保障と世界平和
第 41 回 SGRA フォーラム in 蓼科 開催 p 18
第 43 回 SGRA フォーラム in 国際文化会館 開催 p 20
- ⑥ 宗教と現代社会
- ⑦ 構想アジア

SGRAの概要



■ 目的・事業

本会は、「地球市民の実現」という共通の理念に基づき、一般社会・教育・文化など様々な問題について、学際的、国際的、かつ多元的な発想の研究成果を創造し、それらを素に政策の立案、提言、実践支援及びその普及を通じて、地球市民の将来を考え、価値ある利益の増進と良き社会の発展に努めることを目的としています。

この目的を達成するため、研究会の開催、情報提供活動、普及・啓発活動、政策提言活動、その他「地球市民の実現」にかかわる活動を行います。

SGRA の特徴



■ 会員

本会は、本会の目的に賛同し、共に行動あるいはこれを支援しようとする賛助会員（法人と個人）、および特別会員、メール会員をもって構成されています。

1. 賛助寄附者を賛助会員と呼称します。本会の年次報告、SGRA レポート、SGRA かわらばんの配送を受けることができます。
2. 特別会員は運営委員会により指名されます。本会の年次報告、SGRA レポート、SGRA かわらばんの配送を受けることができます。
3. メール会員は原則本人からの自動登録・退会となりますが、運営委員会の承認を必要とします。SGRA かわらばんの配信を受けることができます。

■ 運営体制

本会は、渥美財団の基本財産運用益と法人・個人からの寄附金、諸機関から各プロジェクトへの助成金、その他の収入を運営資金とし、運営委員会、研究チーム、プロジェクトチーム、編集チームによって活動を推進しています。

1. 運営委員会は、本会の運営に関する重要事項について決議します。
2. 研究チームは、研究員により構成し、必要に応じて他の参加を求め、メンバーの意見を反映させて事業を遂行し、広く情報提供を行います。
3. プロジェクトチームは、主に海外拠点プロジェクトにおいて個別案件の時限組織として編成されます。
4. 編集チームは、編集委員をもって構成し、レポートの編集、発行を行います。

第1回 日台アジア未来フォーラム

国際日本学研究所の最前線（フロンティア）に向けて：
流行（トレンド）・ことば・物語（ストーリー）の力

日程：2011年5月27日（金）午前9時～午後5時

会場：台湾大学文學院演講庁

共同主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

国立台湾大学文學院

国立台湾大学日本語文学系・台湾大学日本語文学研究所

助成：国際交流基金

協賛：中鹿營造（股）有限公司

SGRAの5番目の海外拠点である台湾で、初めてのフォーラムを開催。台湾、日本、中国、韓国、米国、イタリアから日本文化の中堅・若手研究者を迎え、従来の正統的な日本学——日本語研究（言葉）や文芸作品研究（物語・ストーリー）——をめぐる斬新な方法論の実践状況を視野に入れながら、新たに注目された流行文化にも焦点をあてて、21世紀にふさわしい国際日本学研究所の最前線にむけて、特色ある議論を展開していった。



普通の学会では想像できない午前8時半の受付開始早々、参加者が続々入場。開幕式も予定通り8時45分から始まった。



たっぷり2時間も設けられた第一パネルのテーマは「トレンドの力：マンガ・アニメとクール・ジャパン」。アメリカ、韓国、台湾の研究者が日本のポップ・カルチャー研究の状況を報告。



基調講演後のティータイムは、中庭に面した回廊に台湾大学側が用意してくださった豪華な茶菓子を味わいながら、講演者や発表者を囲んでのしばしの歓談となった。



午後の部は13時40分から定刻開始し、二つの会場に分かれ、パネル(2)とパネル(3)を同時開催。パネル(2)「言葉の力：言葉の日中往来」では、語彙研究と語学教育の新しい方法論を検討した。



報告に続き行われた3つのパネルの総括が終わった後、本フォーラムのクライマックスを飾るフロアとの質疑応答&意見交換のコーナーに移り、濃密な意見交換が行われた。

興味深い報告がぎっしり詰まった
第1回 日台アジア未来フォーラム論文集
ISBN978-4-906884-00-1



詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
「第1回日台アジア未来フォーラム報告（その1）（その2）」

第4回 ウランバートル日モ国際シンポジウム

—20世紀におけるモンゴル諸族の歴史と文化—

日程：2011年8月16（火）～18日（木）

会場：モンゴル・日本人材開発センター（モンゴル国ウランバートル市）

共同主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

モンゴル科学アカデミー国際研究所

後援：在モンゴル日本大使館、モンゴル科学アカデミー、
モンゴル・日本人材開発センター、モンゴル科学アカデミー歴史研究所、
モンゴル諸族の歴史と文化研究会、タサム・モンゴル・ディアスポラ研究機構

助成：守屋留学生交流協会

協賛：三菱商事、鹿島建設、Electronmon Trading、Genco Tour Bureau Company、
Mongolian National Public Television、Niislel Tims、モンゴルの花

国境をまたぐモンゴル諸族はどのようなプロセスを経て現在の状況に至ったのか、近代化への道を歩んだモンゴル人は何を模索し、どのように激動の時代を乗り越えてきたのか、モンゴルを通じて何が見えるかを検討し、その経験や教訓、遺産に、広い視野から、とりわけ歴史と文化の両面からアプローチした、特色ある議論が行われた。



SGRAのモンゴル・プロジェクトは、2007年に企画され、2008年に正式に始まり、今年で4年目を迎えた。



一日目は基調講演を中心に開催、二日目はモンゴル諸族が現在に至るまでの状況について、さまざまな視点から議論が展開された。



16日・17日の2日間の会議に、モンゴル、日本、中国、ロシア、韓国、インドなどの国の研究者約100人あまりが参加し、共同発表も含む、28本の論文が発表された。



第一日目終了後のモンゴル科学アカデミー主催の招待宴会の一コマ。第二日目終了後は日本大使館とSGRA共同で招待宴会を主催した。



会議を終えた翌18日に、チンギス・ハーン記念リゾートを訪れた参加者一行。



モンゴルの食と自然に触れ、頭と身体の両面から、モンゴルを感じ、理解する三日間となった。

詳細はSGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/> エッセイ315：「ウランバートル・レポート2011」

第6回 SGRA チャイナ・フォーラム

Sound Economy（健全な経済と社会） —私がミナマタから学んだこと—

【北京フォーラム】日時：2011年9月23日（金）午後7時
 【フフホトフォーラム】日時：2011年9月26日（月）午後3時
 主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）
 協力：国際交流基金北京日本文化センター
 北京大学日本語文化学部
 内モンゴル大学モンゴル学研究センター

日本の民間人による公益活動を紹介するフォーラムを、北京をはじめとする中国各地の大学等で毎年開催。今回は、元（財）水俣病センター相思社事務局長の柳田耕一氏を迎え、グローバルな視点から、水俣でおきた人類史的な事件の事実と意味についてご講演いただいた。

【北京フォーラム】会場：国際交流基金北京日本文化センター



今年のチャイナ・フォーラムの新しい試みとして、同じ日の午前中に北京大学日本語文化学部の2年生を対象に、ワークショップを実施。中国人学生たちに深く考える材料を提供することができた。



国際交流基金日本文化センターのご好意を得て、初めて大学のキャンパス以外での開催となった今回、大学生はもちろん、会社員、NGO関係者、日本大使館、中国外交部の外交官など40名近くの参加となった。

病気の発生から行政の対応、市民活動の広がり、現在残されている課題などを中心に水俣病に関して語る柳田耕一氏。グローバルな視点から、水俣でおきた人類史的な事件の事実と意味を北京、フフホトの両会場で説いていった。



【フフホトフォーラム】会場：内モンゴル大学学術会議センター



内モンゴル大学、内モンゴル農業大学、内モンゴル師範大学、内モンゴル工業大学、内モンゴル医学院からの教師や生徒および内モンゴル草原環境保護促進会などNGO関係者を含めて約130人が参加。



第11回 日韓アジア未来フォーラム

—東アジアにおける原子力安全とエネルギー問題

【フォーラム】

日時：2012年2月25日（土）午後2時～5時

会場：高麗大学校 LP 経営館 530

共同主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）、（財）未来人力研究院

【懇談会】

テーマ：原発と平和：相互理解と交流の可能性—専門家と学生の懇談会

日時：2012年2月25日（土）午前10時～12時

会場：高麗大学校日本研究センター会議室

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

原子力の安全とエネルギー問題は、東アジア地域の重要な共通課題である。原子力の平和利用が見直されている今、東アジア地域における原子力安全、エネルギー問題に関するさまざまなレベルにおける国際協力の可能性、そしてそれぞれの国や市民社会に求められる役割などについて考えることを目的に、さまざまな提言、議論を行なった。

【フォーラム】



今回のフォーラムの講師の顔ぶれは「大物」が多く、また全く違う立場から原発問題を考えているという特徴があった。対立する立場、中立の立場から、さまざまな議論が展開された。

パネル討論では、ウクライナのオリガ・ホメンコさんによる貴重なチェルノブイリ体験談や経済学者の洪鍾豪（ホン・ジョンホ）さんのコンパクトな提案を聞くことができた。



終了後の食事会。奈良の今西酒造「春鹿」で、フォーラムの盛会を祝って乾杯。



会場となった高麗大学校。

【懇談会】



田尾陽一先生のご提案により、午後開催されるフォーラムに先立ち、同日午前10時から高麗大学日本研究センターの会議室にて懇談会を開催。



参加した学生はみんな高麗大韓国史学科の出身者。田尾陽一先生、薬師寺泰蔵先生、オブザーバーの渥美国際交流財団、アジア21世紀奨学財団の方々と。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>

第11回日韓アジア未来フォーラム「東アジアにおける原子力安全とエネルギー問題」報告（1）（2）

SGRAのネットワークは、近年さらに広がり、北京、上海、延吉、フフホト、ウルムチ、ソウル、慶州、陽平、マニラ、ウランバートル、台北等でもフォーラムやシンポジウムを開催してきました。このたび、SGRA会員だけでなく日本留学し現在世界各地の大学等で教鞭をとっていらっしゃる方々、その学生の皆さんに交流・発表の場を提供するために、趣旨に賛同してくださる諸機関と共同で、第1回アジア未来会議を開催することになりました。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。



■ 開催日

2013年3月8日(金)～3月10日(日)

■ 開催地点

中国上海市



第一日目

3月8日(金) 16:00～18:00

国際フォーラム（講演会）

「世界の中のアジア：地域協力の可能性」

会場：同濟大学

第二日目

3月9日(土) 9:00～17:00

①自然科学シンポジウム

「環境エネルギー技術の地域協力」

会場：同濟大学

②社会科学シンポジウム

「アジアにおける地域協力」

会場：上海財経大学国際工商管理学院

③人文科学シンポジウム

「アジアにおける地域交流」

会場：復旦大学日本研究センター



第三日目

3月10日(日) 9:00～12:00

①懇談会

「グローバル時代の日本研究の現状と課題」

会場：復旦大学日本研究センター

②見学・遠足

アジア未来会議のホームページが出来ました。

準備状況に合わせて適宜更新中。

詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.aisf.or.jp/AFC/>

■ その他お問い合わせ

渥美国際交流財団関口グローバル研究会

〒112-0014 東京都文京区関口 3-5-8

Tel: +81-3-3943-7612

Fax: +81-3-3943-1512

Email: office@aisf.or.jp

第41回 SGRAフォーラム in 蓼科

—東アジア共同体の現状と展望—

日時： 2011年7月2日（土）午前10時～午後5時
 会場： 東京商工会議所蓼科フォーラム研修室 A
 主催： 国際フォーラム「東アジア共同体の現状と展望」実行委員会
 共催： 渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA：セグラ）
 助成： 鹿島学術振興財団
 協力： 東京商工会議所

SGRA「東アジアの安全保障と世界平和」研究チームが担当するフォーラム。諸国が提唱している様々な東アジア共同体論を引き出し、その共通項をまとめ、そのような構想が政策や制度として定着するためにはどのような課題に取り組むべきかについて、日本、東南アジア、韓国、中国、香港、台湾、モンゴル、そして北朝鮮の視点から点検していった。



「SGRA には丁度いいばらつきで東アジアの国々からの研究者が集まっている」。当初の企画は簡単な発想から生まれ、練られていった。SGRA ならではの発表テーマが並ぶ。



開会の辞のなかで、アジアのなかに共同体のような形で平和の枠組みを構築することは、祖父である鹿島守之助・元鹿島建設会長の遺志であったと語る今西淳子 SGRA 代表。



フォーラムはまず、長くこの問題に携わり発言してきた2名の講演者の基調講演から始まった。



昼食は「峠の釜めし」。集中したあとの、ひとときのくつろぎの時間で、英気を養う。



休憩を挟み、韓国・中国・台湾／香港・モンゴル・北朝鮮の順に、それぞれの立場で見つめる東アジア共同体構想について発表があった。



パネルディスカッションは、総括討論から始まり、フロアからの質の高いコメントと質問を受けながら、追加発言と答弁が続けられていった。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
 第41回 SGRA フォーラム in 蓼科「東アジア共同体の現状と展望」報告

第42回 SGRAフォーラム in 早稲田

ーアジア地域エネルギー供給セキュリティ及び建築分野の省エネルギーー

日時： 2011年10月29日（土）午前9時30分～午後5時30分

会場： 早稲田大学理工学部 55N 号館 1 階 第二会議室

主催： 北九州市立大学（日本学術振興会若手研究者交流支援事業）、早稲田大学

共催： 渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）、日本建築学会地球環境委員会アジア地域における建築環境とエネルギー消費検討小委員会

日本学術振興会若手研究者交流支援事業によりアジアの若手研究者を招へいし、一般市民を対象に、各国の都市・建築の省エネルギーの現状及び政策についての講演を実施。中立的立場で省エネルギー事業とアジア地域の習慣・文化を配慮した公平かつ正確な情報を提供するとともに、アジアの省エネルギーのあり方について検討した。



会場となった早稲田大学理工学部 55N 号館に続々と集まる参加者たち。



（株）住環境計画研究所代表取締役所長中上英俊氏による基調講演のテーマは、「アジアにおける省エネルギー政策の重要性」。



二つ目の基調講演は、早稲田大学准教授高口洋人氏から。テーマは「カンボジアの建築における成長とエネルギー消費に関する一考察」



午後の研究報告では、北九州市立大学が日本学術振興会若手研究者交流支援事業で招聘したアジアの若手研究者たちが、自国の都市・建築省エネルギーの現状及び政策について発表した。



研究発表は、インドネシア、フィリピン、インド、タイ、オーストラリアの5ヶ国7名が行った。



パネルディスカッションでは、Max Maquito 博士が専門の「市場と経済」の要素を話題に盛り込んだことから、エネルギーと環境だけに留まらず、より広い話題を議論することができた。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>

第42回 SGRA フォーラム「アジア地域エネルギー供給セキュリティ及び建築分野の省エネルギー」報告

第43回 SGRAフォーラム in 国際文化会館

—東アジア軍事同盟の過去・現在・未来—

日時：2012年2月18日（土）午後1時～5時

会場：国際文化会館講堂

主催：渥美国際交流財団関ログローバル研究会（SGRA）

SGRA「東アジアの安全保障と世界平和」研究チームが担当するフォーラム。2004年7月に開催した第16回 SGRA フォーラム in 軽井沢「東アジア軍事同盟の過去・現在・未来」を受け、8年後の現在、どう変わったのか。同じ講師によりこの8年間の変化をとらえ、現時点の課題と今後の展望を考えた。



SGRA で初めてのリユニオン・フォーラムとなった今回、国際文化会館（講堂）での開催も、SGRA 初となった。



フォーラムの前半には、韓米同盟・台米同盟・比米同盟・日米同盟の四つの二国間同盟についての報告があった。



「ポスト冷戦期の米比同盟—引き続き過去と新たな脅威」と題し、比米同盟の現状について報告する伊藤裕子・亜細亜大学国際関係学部教授。



「広域化するソマリア海賊と日本の対応」というテーマで、破綻国家の投げかける安全保障上の問題とこれに取り組む国際社会のあり方について語る竹田いさみ・獨協大学教授。



問題提起に引き続き、パネルディスカッションが行われた。6名の報告者がそれぞれ補完発言を行った後、フロアーからコメントと質問をいただいた。



閉会後に行われた懇親会で、親交を温める参加者たち。8年後の2020年をめざし、再度のリユニオン・フォーラムを企画・検討しようとの意見も。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
第43回 SGRA フォーラム「東アジア軍事同盟の過去・現在・未来」報告

財団運営

2011年度 業務日誌

4月6日	4月例会（於：渥美財団ホール）
23日	第1回理事会（於：鹿島新館）
5月9日	5月例会：個人面談（13日まで）
26日～28日	第1回日台アジア未来フォーラム「国際日本学研究所の最前線に向けて —流行・ことば・物語のカー—」（於：台湾大学） <u>論文集発行</u>
6月1日	2010年度年報発行
3日	第1回評議員会（2010年度事業報告と決算報告）・懇親会（6月例会）（於：KIビル）
7月1日	募集要項配布（関東地方の大学に通知、ホームページに掲載） 蓼科リクリエーション旅行（3日まで）
2日	第41回 SGRA フォーラム in 蓼科「東アジア共同体の現状と展望」 （於：東京商工会議所蓼科フォーラム） <u>SGRA レポート # 61</u>
23日	8月例会：座談会片岡達治先生をお迎えして「放射能—人体に与える 影響について」（於：渥美財団ホール）
8月16日～18日	第4回ウランバートル日モ国際シンポジウム「20世紀におけるモン ゴル諸族の歴史と文化」（於：ウランバートル モンゴル・日本人材 開発センター） <u>論文集発行予定</u>
9月1日	9月例会：個人面談（7日まで） 2012年度奨学生応募受付開始
19日	被災地支援プロジェクト インターナショナル炊き出し in 石巻（於： 石巻市 あけぼの子ども会）
9月23日	第6回 SGRA チャイナフォーラム in 北京「Sound Economy～私 がミナマタから学んだこと～」（於：国際交流基金北京日本文化センター） ワークショップ（於：北京大学日本語文化学部）
9月26日	第6回 SGRA チャイナフォーラム in フフホト「Sound Economy ～私がミナマタから学んだこと～」（於：内モンゴル大学学術会議セ ンター） <u>SGRA レポート # 62</u>
30日	2012年度奨学生応募締め切り（応募者総数 137 名）
10月7日	10月例会：食事会（於：ベトナム料理「ベトナムガーデン」）
12日	2012年度奨学生書類審査
26日	2012年度奨学生候補者予備面接（11月1日まで）
29日	第42回 SGRA フォーラム「アジア地域エネルギー供給セキュリティ 及び建築分野の省エネルギー」（於：早稲田大学理工学部） <u>SGRA レ ポート # 63 編集中</u>
11月7日	11月例会：個人面談（11日まで）
26日	2012年度奨学生最終選考・面接
12月9日	12月例会：鹿島建設技術研究所見学
10日	第2回理事会（於：鹿島新館）
1月14日	1月例会：新年会（於：渥美財団ホール）
2月1日	2月例会：個人面談（8日まで）
18日	第43回 SGRA フォーラム「東アジア軍事同盟の課題と展望」（於： 国際文化会館） <u>SGRA レポート # 64 編集中</u>
25日	「原発と平和：相互理解の可能性—専門家と学生の懇談会」（於：韓 国・ソウル 高麗大学校日本研究センター）
	第11回日韓アジア未来フォーラム「東アジアにおける原子力の安全 とエネルギー問題」（於：韓国・ソウル 高麗大学校 LP 経営館）
3月3日	3月例会：2011年度奨学生研究報告会（於：渥美財団ホール）
10日	第3回理事会（於：鹿島新館）
13日	2011年度奨学生最後の食事会（於：ホテルイースト 21 東京「日本 料理・さざんか」）

財務諸表

貸借対照表

2012年3月31日現在

	(単位：円)
科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	24,848,163
2 固定資産	
(1) 基本財産	1,489,000,000
(2) 特定資産	51,960,000
固定合計	1,540,960,000
資産合計	1,565,808,163
II 負債の部	
1 流動負債	1,036,450
2 固定負債	3,240,000
負債合計	4,276,450
III 正味財産の部	
1 指定正味財産	1,540,960,000
(うち基本財産への充当額)	1,489,000,000
(うち特定資産への充当額)	51,960,000
2 一般正味財産	20,571,713
正味財産合計	1,561,531,713
負債及び正味財産合計	1,565,808,163

正味財産増減計算書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

	(単位：円)
科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常損益の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	30,060,907
特定資産運用益	40,000
受取補助金等	1,977,500
受取寄附金	20,254,735
雑収益	26,126
経常収益計	52,359,268
(2) 経常費用	
事業費	55,358,894
管理費	3,301,998
経常費用計	58,660,892
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 6,301,624
基本財産評価損益等	1,271,042
当期経常増減額	▲ 5,030,582
2. 経常外損益の部	
(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	63,060,000
当期経常外増減額	▲ 63,060,000
当期一般正味財産増減額	▲ 68,090,582
一般正味財産期首残高	88,662,295
一般正味財産期末残高	20,571,713
II 指定正味財産増減の部	
固定資産受贈益	44,040,000
基本財産運用益	30,060,907
基本財産評価益	77,271,042
特定資産評価益	7,920,000
基本財産評価損	▲ 79,000,000
基本財産定期預金	60,000,000
一般正味財産への振替額	▲ 31,331,949
当期指定正味財産増減額	108,960,000
指定正味財産期首残高	1,432,000,000
指定正味財産期末残高	1,540,960,000
III 正味財産期末残高	1,561,531,713

財団法人名簿

(2012 年 4 月 1 日現在)

評議員

渥美直紀	鹿島建設株式会社代表取締役副社長
明石 康	公益財団法人国際文化会館理事長
渥美雅也	一般財団法人東京水産振興会専務理事
蟻川芳子	日本女子大学理事長・学長
岩崎統子	社団法人 CISV 日本協会副会長
加藤秀樹	構想日本代表、行政刷新会議事務局長
佐藤直子	公益社団法人日本プロテニス協会理事長
田村次朗	慶應義塾大学法学部教授
遠山友寛	TMI 総合法律事務所パートナー
永山 治	中外製薬株式会社代表取締役社長
堀田健介	グリーンヒル・ジャパン株式会社代表取締役会長
水谷 弘	専修大学名誉教授
宮崎裕子	長島・大野・常松法律事務所パートナー
八城政基	元株式会社新生銀行取締役社長
山本尚子	財団法人伊藤謝恩育英財団常務理事

理事

渥美伊都子	理事長 CISV 日本協会会長
今西淳子	常務理事、関口グローバル研究会代表
高 偉俊	北九州市立大学国際環境工学部教授
片岡達治	元癌研究会癌化学療法センター主任研究員
金 外淑	兵庫県立大学看護学部心理学系教授
嶋津忠廣	事務局長
角田英一	元財団法人アジア 21 世紀奨学財団理事長
平川 均	名古屋大学大学院経済学研究科教授
李 恩民	桜美林大学リベラルアーツ学群教授

監事

秋山 豪	鹿島建設株式会社顧問
石井茂雄	石井公認会計士事務所所長

選考委員

畑村洋太郎	委員長、東京大学名誉教授、 工学院大学グローバルエンジニアリング学部教授（産業機械工学）
井上博允	東京大学名誉教授、 産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター顧問（情報工学）
片岡達治	（理事）（薬学）
佐野みどり	学習院大学文学部教授（美術史）
田村次朗	（評議員）（法学）
平川 均	（理事）（経済学）

渥美奨学生

渥美奨学生名簿は URL：<http://www.aisfor.jp/information/doc10.pdf> をご覧ください。

2011年度の活動にご協力いただいた皆様

～ありがとうございました～

奨学および国際交流事業へのご寄附

団体

(株) アクト・テクニカルサポート	ケミカルグラウト (株)
中外製薬 (株)	中央工業 (株)
大和証券キャピタル・マーケット (株)	イースト不動産 (株)
(株) イリア	鹿島道路 (株)
鹿島建設 (株)	鹿島リース (株)
鹿島建物総合管理 (株)	かたばみ興業 (株)
大興物産 (株)	(株) 都市環境エンジニアリング
東亜産業 (株)	(株) 八重洲ブックセンター
横浜実業 (株)	

個人

渥美伊都子	藤井純一 / 井手園子	岩崎統子	谷原 正	八城政基
李 鋼哲	ハムスレン・ハグワスレン	権 明愛	張 建	

SGRA の活動支援へのご寄附

団体

21 世紀問題懇話会	エックス都市研究所
(財) 鹿島平和研究所	鹿島建物総合管理 (株)
キッコーマン (株)	(株) 小堀鐸二研究所
モンゴルの花	中鹿營造股份有限公司
プラス (株)	大興物産 (株)
(株) 虎屋	(株) ウイン

個人

足立憲彦	赤池 豊	明石 康	秋山 豪	青木生子
蟻川芳子	曹 波	藤原勝彦	深見尚史	原 嘉男
ハシモトルコ	平舘幸治	洪ユンシン	星埜弘明	堀田健介
胡 潔	藤田隆則	池崎美代子	今西淳子	井上博允
石井慶子	石井茂雄	石山 勉	岩間陽一郎	岩崎統子
具 延	金子 宏	貫戸朋子	片岡達治	河村一雄
金 政淑	金 外淑	岸本泰廣	近藤寿治	栗原俊記
黒住 真	李 恩民	李 鋼哲	林 泉忠	林 少陽
前川麻里	真辺文宏	三澤正勝	宮川守久	水谷 弘
森本洋史	村田雄二郎	長岡 實	永山 治	中村順次
中谷俊信	中澤忠義	南 基正	並木隆史	ナボレオン
野村継男	岡本和久	奥村裕一	大内聖子	佐野みどり
佐藤直子	瀬谷啓二	施 建明	嶋津忠廣	染谷 香
鈴木 茂	鈴木由美子	高橋 甫	高橋 司	竹本 孝
竹内 忍	田代民治	東城清秀	遠山幸三	辻 悦子
恒川恵一	都竹武年雄	上野 宏	上野由美子	ヴィグル・マティアス
王 剣宏	王 雪萍	呉 弘敏	武 玉萍	山田俊作
顔 海念	シュラトフ・ヤロスラブ	葉 文昌	由田哲也	吉田由美子
干 曉飛	臧 俐	朱 庭耀		